品川区にはアートがいっぱい!

皆さまは「品川ゆかりアーティスト」をご存知ですか？ 近年、水辺とアートの街として注目され、年間を通じて数々のアートイベントが行われている天王洲エリアでは、巨大壁画やオブジェをはじめ現代アートが街角で見られますが、その中に「品川ゆかりアーティスト」の作品も展示されています。

「品川ゆかりアーティスト」とは、品川区出身・在住または品川区内を主な活動の場としているアーティストを応援していく目的で、公益財団法人 品川文化振興事業団が募集し支援をしている皆さんです。同事業団では2009年から品川区民芸術祭の期間中に『品川アーティスト展』を開催し、作品展示・ワークショップ・ステージ・アート体験等のイベントを通じてアーティスト自身や作品を内外に紹介しています。この取り組みがきっかけで、「品川ゆかりアーティスト」は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホッケー競技応援に向けた「ホッケースティックアート」の作品制作協力を行い、ホッケー日本リーグの公式プログラムの表紙に作品が取り上げられるなど活動の幅を広げており、区内各地の地域イベントでワークショップや作品の展示、販売を行っています。

皆様もぜひ区内各地のイベント会場に足を運んで、アーティストの皆さんと直接話し、素敵な作品たちに出会ってみてください。（公益財団法人 品川文化振興事業団　文化振興課／一般社団法人 天王洲キャナルサイド活性化協会／旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会 運営委員　大越 章光）



天王洲にある品川ゆかりアーティスト
フカザワユリコさんの「金色のネコ」

品川宿ゲストハウス&ツアーズ

皆様、いつも温かいご支援をいただき誠にありがとうございます。おかげさまで、当ゲストハウスは開業から15周年を迎えることができました。この15年間、国内外から訪れるお客様をお迎えし、地域の魅力を伝えながら、多くの素敵な出会いに恵まれてきました。これもひとえに地域の皆様、そして当宿をご利用いただいたすべてのお客様のお力添えの賜物です。この場をお借りして、心より厚く御礼申し上げます。

さて、このたび私たちは「ゲストハウス品川宿」という名前から「品川宿ゲストハウス&ツアーズ」へと改名いたしました。この新しい名前には、ただ宿泊の場を提供するだけではなく、品川宿やその周辺地域の魅力を深く知っていただける場でありたいという願いを込めています。宿泊施設としての役割だけでなく、地域をより知っていただけるツアーや体験プログラムなどを通じて、品川宿やその周辺地域の素晴らしさをお伝えしてまいります。

これからも、お客様と地域をつなぐ架け橋となり、品川宿を訪れるすべての方に「ここに来てよかった」と思っていただけるような体験をお届けすることを目指してまいります。引き続き、温かいご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。（渡邉崇志・柳樂眞子）



開業当初



現在

第11回品川蕪品評会@品川神社

今年も小学校やいろんな環境にあるプランター、菜園などで元気にそだった品川蕪たちが品評会を盛り上げます！ 講談の田辺師匠、和太鼓演奏の大元組、シャンソン歌唱の田代美代子さんがいらして、一年の終わりを締めくくるにふさわしく、温かく華やかな会となることでしょう。どこの学校が受賞するのか、原稿を書いている今は分かりませんが、３ヶ月ほどかけて育てた品川蕪を愛でて味わって欲しいと思います。

そして、品評会当日、この品川蕪を使ったクラフトビール<しながわカブが上がるエール>が数量限定にてリリースされます。森澤品川区長が命名したこのビール、果たしてどんな味わいなのか楽しみ。（わだふじこ）



「TENNOZ PLACE 2024AUTUMN」開催

TENNOZ PLACEは天王洲アイルの第２水辺広場・道路・公開空地を会場としてイベントを開催しています。昨年から始まり、「新たなまちの価値を創る」「子どもたちの思い出の場所を作りたい」という想いから始まりました。イベント業者は使用せず、天王洲周辺の企業・就業者・品川区役所や近隣住民に支えられ開催することができています。

10月に開催したイベントはマルシェ・キッチンカー・ワークショップに加え、青空女子プロレスなど展開し、約7,000人が来場いたしました。来年は5月頃開催予定。ぜひ遊びに来てください。（TENNOZ PLACE実行委員会　実行委員長　松岡久美子）



スイス大統領が品川寺を訪れました!

令和６年８月５日、スイスと日本の国交１６０周年を記念して来日していた、スイスのヴィオラ・アムヘルト大統領が、ジュネーブと友好都市の関係にある品川区の品川寺を訪れました。森澤区長、品川寺の仲田住職とともに、平和を願い梵鐘がつかれました。青物横丁商店街の権理事長や堀江会長をはじめとした地元の関係者も歓迎にかけつけ、友好都市のきっかけとなった品川寺の大梵鐘の歴史や、これまでの文化的な交流について、さまざまなお話しをさせていただきました。世界とつながる品川の歴史を感じる貴重な1日となりました。（竹中茂雄）



旧東海道品川宿周辺 まちづくり協議会 会員募集のご案内

まちづくりはみんなでたのしく!
どんな提案もオッケー、どなたでもウェルカム、すべてオープンです。
品川宿では今日もどこかで何だか楽しそうなことが動いています。
お預かりした会費は各プロジェクトの運営費としています。

1. 月例運営委員会　毎月最終火曜日20時～（年末など変更あり）
　場所：品川宿交流館　どなたでも見学、参加、提案オッケーです!
2. 広報活動（会報「みこしだこ」、「品川宿かわら版」の発行、HP・FB運用など）
3. 品川宿交流館、南品川欅河岸 まちなか観光案内所の運営
　（来宿者へのおもてなし、地域交流、活動・イベント受入など）
4. サポート事業（区内学校支援、伝統文化実演、ホッケー、サッカースクールなど）
5. 地域事業の主催・共催・協力（しながわ宿場まつり、しながわ運河まつり、品川浦・天王洲地区運河ルネッサンス協議会、品川宿史談会、灯篭プロジェクト、品川宿ハロウィンなど他多数）
6. 応援プロジェクト（ゲストハウス品川宿、ドキュメント、わいわい晩ごはんなど多数）

◎年会費／団体・法人 30,000円　個人 10,000円
一度遊びにいらしてください。ご連絡お待ちしています!

品川区北品川2-28-19　品川宿交流館
電話 03-3472-4772　FAX 03-3472-4770　メール machikyo@west.cts.ne.jp

HPは
こちら

発行：旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会

東海道品川宿
品川宿会報みこしだこ
2025年 新年版
2024年12月発行 第63号

謹賀新年

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年も無事に例大祭、宿場まつりが執り行われ、年番町会、商店会をはじめ、会員各位及び関係者の皆様の多大なるご尽力とご協力によるものと心から感謝を申し上げます。

「しながわ宿場まつり」や「しながわ水辺の観光フェスタ」に象徴されるように、新型コロナウィルスを乗り越えたイベントの活況が著しい一年となりました。同時に、品川宿を取り巻く周辺環境の大きな変化の波も動き出し、地元商店街や再開発に目を向けるととても厳しい課題もあり、未来に向けて、新たな議論をはじめる年でもありました。

さて、まちづくり協議会の活動は、「お休み処」「まちの広報」「交流」「まち並み整備」「水辺」「しながわっこ」「文化スポーツ」「研究・開発・特別事業」の8つのプロジェクトを柱に継続した活動を行っています。各取り組みに担当者の想いがあり、具体的な活動を行なっています。

そして毎月1回（最終火曜）開催される運営委員会では、品川宿で何かをやりたい気持ちを持った人とそれを応援したい人が「つながる場」であると同時に、品川宿のまちづくりについて対話、協議を行う場として、37年間、継続しています。

「どなたもウエルカム、どんな提案もオーケー、全てオープン!」、それが私たちのモットーです。これからの品川宿を語るために多くの方々のまちづくりへの参加、そして活発な意見交換が必要です。皆様のご参加を運営委員会でお待ちしております。

最後に、昨年11月に品川宿から総勢20名のメンバーで「東海道シンポジウム新居宿大会」に参加し、東海道五十七次の宿場のみなさまと交流してまいりました。「東海道一の宿」「東海道の親宿」という品川宿への期待や、東海道全域で連携して盛り上っていこう！ と改めて感じる会であったことを報告いたします。

新年を迎え、ひとりひとりの暮らしのウェルビーングに目を向けて、「次世代を担う子どもたちに、いつまでも祭りが続けられるまちを伝えていく」という原点に立ち返り、品川宿らしく「みこしだこを伝えるまちづくり」に取り組んでいきます。

本年も変わらぬご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

旧東海道品川宿周辺まちづくり協議会
会長　堀江 新三





撮影／秋冨 哲生

交流事業

東海道シンポジウム新居宿大会



今回、新居で開催された東海道シンポジウムに参加しました。新居は私の父の故郷であり、幼い頃はお正月に家族で訪れ、浜辺で初日の出を眺めたり、しらす干しやうなぎを食べたり、あとひきせんべいをお土産に持ち帰るなど、懐かしい思い出がたくさん詰まった場所です。父の家族はかつて新居関所の面番所に20年ほど暮らし、祖母は関所の管理人としてその維持管理を担い、祖父は新居町役場で働いていました。晩年、父は新居の思い出話をよくしており、今回のシンポジウムは父を偲ぶ意味でも特別な機会となりました。

姉とともに訪れた新居では、80歳になる叔母の案内のもと、関所や父の母校を訪れながら、父が過ごした時代の話を詳しく聞くことができました。また、久しぶりに祖父母のお墓参りも叶いました。シンポジウムでは、吉元先生の庭園に関する講演が特に印象に残りました。幼少期から新居の公園の植栽が美しく整っていると感じていましたが、その背景を知ることで新たな発見があり、大変興味深く感じました。

さらに、実行委員会の寺田会長との会話の中で、会長が私の祖父の友人であったことがわかり、地域の方々との縁の深さ、新居の人々の温かさを改めて実感しました。限られた2日間でしたが、新居の魅力と人々のつながりを再認識する有意義な時間となりました。近い将来、また新居を訪れ、次回は庭園巡りや、食べそびれたうなぎを楽しみたいと思っています。

（和田紀子）

蒲原西小学校修学旅行



すっかり定着した蒲原西小学校の修学旅行、今年も10月23日6年生32名が品川宿を訪れました。品川神社の宝物殿は改修工事のため見学できなかったのが残念でしたが富士塚に登り板垣退助公の墓所、荏原神社をお参りして丸屋さん前の旧東海道へ。ここで宿場の景観を守るための電線の地中化や街道松等地元の人達の活動を織り込んでガイドが生徒達を案内しました。聖蹟公園にはまち協やガイドしながわ、地元の人達がお迎え、続いて4班に分かれて生徒達による「蒲原の街の魅力」についてプレゼンが行なわれました。生徒達がお土産に持参した桜エビと鰯の削り節パック、これに添えられた一言メッセージを読むのも宿場交流による人への出会いとして楽しんでます。

（伊東　進）

景観まちづくり事業

景観アドバイザー窓口、整備計画などの近況

昨年度、「旧東海道品川宿地区街なみ環境整備事業補助金」いわゆる景観助成金を積極的に活用頂けてはいない現状について大きな課題と報告しました。

今年度も品川区景観担当から情報提供のパンフレットが助成の対象となる各戸へ再配布されました。ご尽力が奏功し、本年度は概ね予算額に近い修景工事が行われました。

景観助成金は旧東海道および北馬場、南馬場通り・ジュネーブ平和通り沿道の建物において行われる外観変更工事を対象に品川宿らしい魅力を一層高めて頂く事を後押しする制度です。

そして月3回アドバイザー窓口相談では、設計者・施工者を通じ事業主様へ品川宿と旧東海道が持つ景観上の個性に目を向けて頂く事を促しています。

（伊與久なつむ）



南品川櫻河岸　まちなか観光案内所（旧交番）

旧交番がまちなか観光案内所としてリニューアルし、早いものでまもなく3年。現在では土日はまち歩きの方、グループをはじめ、近隣に暮らす方々のお立ち寄りなど多くの方々と品川宿のことを話す機会が増えました。昨年夏に国登録有形文化になったことで、今年は、取材や撮影場所の問い合わせも増し、少しずつ品川宿の観光スポットとしての役目も出てきました。月水土と週3日開館している中で、新しく移り住んで来た方からお祭りの参加の方法や地域コミュニティの関わり方などのご相談ごとはとても嬉しく感じています。リアルまちの交番目指して、地域のみなさん、街道文庫田中さんとともに来年も元気に交番勤務します！

（わだふじこ）



＼ 灯篭プロジェクト @しながわ水辺の観光フェスタ2024 ／

東海道品川橋会場（福栄会裏手目黒川沿い）にて、10月12日(土)花火が上がる時間に合わせ、台場小、城二小、東京サラヤ、品川宿まちづくり協議会（景観アドバイザー）の協働で「灯篭ロード」が開催されました。

段ボールでできた骨組みに灯りはLEDの豆球、子どもたちが自由な発想で紙に絵を描いて本体に巻き付ける簡単な作りですが、一つ一つに子どもたちの個性や未来が映し出されていて、見ているととても幸せな気持ちになります。目黒川対岸から見てみると、色とりどりの灯篭の灯りが水辺に映え、とても幻想的に揺れていました。

2014年からスタートしたプロジェクトですが、今後、どのように継続するかを考えるために200名ほどにアンケート調査を実施。その結果、多くの方に賛同いただき、今後の活動の励みとなりました。

（東京サラヤ　小野文義）



「生まれ変わる北品川」

北品川駅周辺で行われている京浜急行本線連続立体交差事業は、泉岳寺駅から新馬場駅までの約1.7ｋｍの区間について、道路と鉄道を連続的に立体交差化するものです。北品川駅周辺では鉄道が高架化され、品川第一踏切（八ツ山）、品川第二踏切（旧東海道）、北品川第一踏切(清水横丁)の3か所の踏切が除却されます。一方で品川駅の京急線は地平化され、ＪＲとの乗換が円滑にできるようになります。これから八ツ山跨線線路橋の架け替えなどの難工事が始まりますが、無事に工事が終わることを願うばかりです。北品川駅は高架化に併せて駅舎を新しくし、駅前広場をつくります。この場所にはその昔、海に近いのにも関わらず「磯の清水」と呼ばれる名水の出る清水井があったそうです。そんな清水横丁や旧東海道の歴史、お祭り文化を尊重しつつ、安全なまちをつくってまいります。　（品川区　片山）



しながわっこプロジェクト

第14回　品川宿小学校東海道駅伝･マラソン大会

11月24日（日）今年もたくさんの方々のご支援、ご協力をいただき「品川宿小学校東海道駅伝・マラソン大会」を開催する事ができました。この大会は近隣６校の小学校、義務教育学校の４～６年生が出場し行われます。今年は天候にも恵まれ約200名の子ども達が元気いっぱい旧東海道を駆け抜けました。今年で14回目を迎えた今大会。回を重ねる毎に地域のみなさまからの温かいご支援、応援の声が増えてきています。　東海道駅伝が長く愛され地域交流の場となり、地域の「まちづくり」に貢献できればと願っております。また参加した子ども達が大人になり、いつか運営側になるまでしっかりとタスキを繋いでいけるよう見守っていきたいと思います。



（第14回品川宿小学校東海道駅伝実行委員長　東城 由香（台場小学校PTA））

城南小学校　東海道歴史探訪（6年生）

2024年6月15日（土）城南小学校の6年生を対象にまち歩き「東海道歴史探訪」が行われました。10班に分かれて城南小学校から出発し、八ツ山橋、品川神社、鯨塚、土蔵相模跡、聖蹟公園、台場跡など旧東海道品川宿の史跡をまわりました。各地点では歴史上の人物に扮した先生や地域の方が寸劇をし、子どもたちを楽しませてくれました。学校の歴史の授業では未履修の範囲ですが、自分たちのまちの出来事をきっかけに、授業の理解が深まることを願います。

参加したPTA からは「長く住んでいたが知らなかった」「こどもが歴史や、まちに興味をもつきっかけになるのでこういった取り組みは助かる」といった声がありました。

（しながわっこプロジェクト　池上貴之）



特別事業

品川宿史談会令和6年講演会

今年度、第1回は令和6年7月28日、江戸吉原の経営学の著者・日比谷孟俊先生による「御殿山にあった日比谷平左衛門邸から辿る・日比谷家の近代・近世。中世」の講演から始まった。

日比谷俊は慶応大学教授退任後実践女子大教授であることが判明、そこから太平洋戦争前昭和まで北品川3丁目にあった日比谷邸（敷地約3000坪）との関係を探ることが緊急の要点となる。日比谷邸の土地の戸籍謄本から史談会の横山氏が数年前から調べた結果、日比谷邸の前の土地所有者が井上勝氏（鉄道の神と称さる）であることは判明していた。井上勝は明治37年に日比谷氏に敷地を売却している。結果２者の間に森村市左衛門の二男森村開作の存在が見えてきた。森村開作の妻は井上勝の長女卯女子である。

日比谷平左衛門は森村市左衛門の事業が関連した事業に支援した恩人であるという三角関係にあったことが判明した。森村家は、現在のTOTO、INAX、日本碍子、日本特種陶、洋食器のノリタケなど陶磁器を起こした不世出の経営家系である。開作は６代市左衛門の二男である。

第2回は、令和6年10月6日、東京芸大博士課程中博士号取得の青木氏、及び同大大学院邦楽科修了の邦楽演奏家町田夢子氏による「近世文学に映しだされた江戸期品川宿～その音楽文化を吉原遊郭との接点から探る」が講演された。江戸の戯作や随筆等の江戸文学には、品川宿に関する情報が多様な形で記述されていることから、吉原と品川宿の接点を探りながら、両者の音楽文化がいかに生まれ、享受され、影響を与えて合っていたのかを辿る講話であった。復元演奏を町田夢子氏が三味線演奏で行なうという、宿場女郎と、吉原の音曲文化という、極めて稀有な講演と三味線演奏となり、聴講者から万雷の拍手が送られ、後日になっても再演の要望が上がっている。この講演会はケーブルテレビ品川で取材があり、11月末に放映された。

（新実正義）

江戸名所図会で知る品川宿まち歩き

現在品川宿交流館で『江戸名所図会』展が開催されています。その一環として“講座とまち歩き”「第1回　清水横丁と御殿山」が、11月16日（土）、品川宿交流館で14名が参加し開催されました。「講座」では、今回のテーマに沿って「磯の清水」と御殿山について、『江戸名所図会』『東海道名所図会』『名所江都百景』『東海道分間延絵図』『絵本江戸土産』なども参考に様々な角度から、その実際と変遷について解説されました。「まち歩き」では、目黒川の旧河道、虚空蔵横丁と小泉長屋等の品川宿の路地と横丁歩きから、現在も残る御殿山の斜面、坂道、英国公使館跡と御殿跡の推定地、磯の清水の跡地と清水横丁を巡りました。（街道文庫　田中義巳）



品川×スポーツ スポーツのチカラでまちを元気に!

ホッケー日本代表

2024年6月にパリ五輪の壮行大会として大井ホッケー競技場で開催した「SOMPO JAPAN CUP」では、初めて2,600席のスタジアムが満員になりました。選手達は「こんなに声援を受けて試合をしたのは初めて!」「パリ五輪に向けて勇気をもらった」と涙を流して喜んでいました。パリ五輪本番では、目標であったベスト8には届きませんでしたが、地元フランスから3大会ぶりの1勝を手にできたことは、大きな成果と自身になりました。また、2024年は、東京2020を機に品川でホッケーをはじめた子供たちが日本代表に選ばれたり、全国大会で勝利をあげた年でした。2025年も引き続き歩みを止めること無く、一歩一歩世界に向けて挑んでまいりたいと思います。
(日本ホッケー協会事務局長　坂本幼樹)



パリオリンピック・地元フランス戦を前に国歌斉唱する女子ホッケー日本代表さくらジャパン（写真提供：(公社) 日本ホッケー協会）

フリークス東京

皆様こんにちは。品川区をホームタウンに活動しているホッケーチーム、フリークス東京です。私たちは今、高円宮牌ホッケー日本リーグを主戦場に全国の強豪としのぎを削っています。ホームグラウンドである、大井ふ頭中央海浜公園ホッケー競技場は、東京2020五輪でホッケーの競技会場になりました。

約10年前、品川区が五輪の区内開催競技としてホッケーを行うことになったことをきっかけに、お祭りなどのイベントで地域の方とご縁をいただいたことが今に繋がっています。これからも応援よろしくお願いします。

また、お子さんの受け皿として小学生やU15のクラブも運営していますので、体験入団などいつでもお気軽にお問い合わせください。
(NPO法人メトロ東京ホッケー＆アスリートクラブ代表理事　多氣洋平)



東京ヴェルディ女子ホッケーチーム

私たちは品川区を拠点に活動している女子ホッケーチームです。日本最高峰「高円宮牌ホッケー日本リーグ・さくらリーグ」でプレーしています。日本一を獲得するまでの実力はまだないですが、働きながら人として・選手として高みを目指して頑張っています。いつも区民の皆様に応援をいただき、ありがとうございます。今年はしながわ水族館で支援企業様と共に環境問題や女性活躍推進を目的としたイベント開催や、戸越銀座商店街のゴミ拾い活動にチャレンジしました。ホーム戦では子ども食堂の子供たちにエスコートキッズに参加いただきました。これからも地域との関わりを大切に、みなさまに愛されるチームを目指し活動してまいります。どうぞよろしくお願いします!
(東京ヴェルディ女子ホッケーチーム　藤尾香織)



東京ヴェルディ女子ホッケーチーム

品川CC

私たち品川CCは品川港南エリアをホームタウンとし、サッカー、3人制バスケットボール、チア、アメリカンフットボール、ブラインドサッカーと5競技で活動する地域総合型スポーツクラブです。

今年からサッカーの元日本代表の槙野智章が監督に就任し、品川エリアの盛り上げに力を注いでおります。品川CCのクラブテーマは「BRIDGES」。目の前の勝利や技術の向上のみならず、クラブの活動を通じて品川の様々な魅力を繋ぐ架け橋のような存在になることを目指します。私たちが大切にするスポーツや文化活動には人が集う場所つくり、人々を結びつける力があります。その力を活用し、地域のステークホルダーや様々な活動の架け橋となり、地域と共に歩み愛されるクラブを創っていきたいと考えています。

ぜひ街の皆様と様々なシーンでご一緒できればと思っております。
((株) 品川カルチャークラブ　代表 吉田祐介)



東京 2025 デフリンピックが東京で開催されます!

品川区公式デフリンピックサポーターとして活動している植松隼人です。品川区に生まれ育ち、生まれつき耳が聴こえません。過去にデフサッカー男子日本代表監督を務めていた経験があります。耳が聴こえない選手が世界一を目指す世界最高峰のデフリンピックが2025年11月15日から26日まで東京で開催されます！ 世界が一つになるイベントは、オリンピックやパラリンピックだけではありません。デフリンピックの特徴を1つあげると陸上のスタートはピストルの音ではありません。光を使ったスタートランプが用いられます。音声を見えるものにするという視覚情報が必要です。皆さんにお伝えしたいことはデフリンピックを調べてもらい、好きなスポーツを観に行ってみてください。これからのまちづくりのヒントがあります。聴こえない人と聴こえる人と一緒に歩み寄れる社会をみんなで目指しましょう!
(品川区公式デフリンピックサポーター 植松隼人)



水辺プロジェクト

しながわ水辺の観光フェスタ

＼秋の運河花火まつり(海上公園)／

「品川区民として、わたしはなにができるだろうか?」

そんな問いをしながわ水辺の観光フェスタに参加しながら、ふと思う…私は普段、タレントとしてCM・Web広告などに出演をしながら、コロナ禍より続けていたゴミ拾い活動の普及に努めています。

そんな中で、観光フェスタの実行委員会などを務めているなぎさの会の素敵コミュニティでの交流を経て、祭りの来場者・関係者の"笑顔"を見てきました。

冒頭の問いに対して、今回、当イベントに参加し、私の役割は「イベントが絶えないように全力で盛り上げながら、私も全力で楽しむ」ことなのだと思いました。そのために、自身のエンタメ力をもっと上げたい!と心の底から思うので、今日も寝る前にネタ作りに励むことにします。
(なぎさの会　井上寛太)



＼青空ファミリーフィットネス／

2025年あけましておめでとうございます。

今年も地域の子育て世代集まれ!という趣旨のもと、天王洲公園での運河祭り春・秋と「青空フィットネス」益々パワフルに盛り上げてまいります! 子どもたちはもちろんパパママの健康課題解決の一助になっていると自負しております。

そして、今年は更にシニア世代の皆様にもお届けしたく万全の準備を整えています。皆様の町会で肩・腰・膝…更に快適に過ごせたら良いなぁーと感じられる皆様お声がけいただけますと幸いです。

フィットネスはどれでもどこでもその方の体力・気分に合わせて行える運動です!

心も体も余力あるハッピーな一年にしてまいりましょう!
(OKJエアロビックファミリー代表 上田泰子)



＼秋のカナルフェス&ハロウィン(勝島)／

10月26日　品川水辺の観光フェスタの勝島地区担当として、「勝島秋のカナルフェス＆ハロウィン」を開催しました。

今年は、浮き桟橋の劣化もあり残念ながらEボートの航行は行えませんでしが、龍馬の砲台のまわりを利用してフリーマーケットも運営に取り入れながら、2つの会場を利用しての開催を試しております。その結果、例年と同様の人数が集まり、あちらこちらで可愛い声が聞かれるような雰囲気を形成できたと思います。
(勝島運河倶楽部　嶋村泰輝)



＼品川橋会場　しながわ橋テラス／

今年は暖かい天候の中、品川橋で『しながわ水辺の観光フェスタ』東海道しながわ橋テラスを開催しました。目黒川沿いには、城南第二小・台場小の子どもたちが作成した灯籠が並び、会場と東海道を照らしました。品川橋では、ワークショップや品川菓匠孝庵＆La capiのお菓子、街道文庫の古本市、ハンドメイド販売などが行われ、地域の交流が深まり、人々がつながり、品川のひとときを楽しみました。地域づくりに貢献できる場となることを願っています。
(東海林新聞舗　関口総理)



しながわウォータープレイ

しながわウォータープレイでは、都市型水上アクティビティとして、東品川海上の桟橋を活用し、品川の水辺でこれまでにない新しい体験を提供しました。アクアボール、ウォーターロール、ウォーターバイク、ペダルカヤックといった多彩なアクティビティを用意し、約300人の方々に楽しんでいただきました。特に家族連れの参加が多く、小学校低学年以下のお子様にも大いに喜ばれ、老若男女問わず幅広い世代に新しい水辺の楽しみ方を体験していただけました。こうした取り組みは地域に新たな魅力を生み出し、新しい試みとして大きな成功を収めたと感じています。
(なぎさの会　大澤淳)



宿場周辺 TOPICS

＼ 商店街活動の一年をふりかえって ／

北品川本通り商店会

コロナ禍が収束し昨年復活した宿場祭り、おいらん道中が、おいらん5名のもと執り行われた。一般公募2名、湯河原から2名、今年初となる宿場ナイトおいらん1名。当日は国内、海外からの観光客で大変賑わった。煌びやかなおいらんを一目見ようとカメラを構えた観光客で終始賑わい、これぞ北品川の祭りだと感じる1日だった。また、北品川本通り商店会では昨年から大好評の「宿場ナイト」や、第一回目の「和服女子in北品川」というイベントを開催。宿場ナイトは、江戸風情に身を纏い、丁髷姿でまちへ来た人を楽しませ、和服女子in北品川では、和服を着てSNSに投稿することでまちの魅力を多くの人に届けようと試みたイベントである。今後も温故知新の精神でまちを盛り上げていく。

（役員　瀬戸瑠美）



北品川商店街協同組合

1月末のスポーツと健康イベントで、バスケット、フットサル、ホッケー等品川区に関係のある団体に声をかけ聖蹟公園で新春北品まつりを行いました。

6月の祭礼、8月の町会の盆踊り、9月の宿場まつり、10月27日（日）にハロウィーンイベント。あっという間の一年でした。ハロウィーンイベンはSPEAKUPさんとのコラボ企画で去年は子供達が商店街の特定の店でお菓子を貰うイベントでしたが、今回はSPEAKUPさんと何度も会合を行い商店街の特定の店でスタンプラリーを行い、後日聖蹟公園でお菓子と交換でき、公園内に子供達が遊べる遊具、



ハロウィーン用のペイント等用意し、親子で楽しんで頂きました。公園でハロウィーンを行うのが初めてで人手の予想が難しかったですが、まあ初めてにしてはそれなりに人が集まり良かったと、思います。来年は商店街の店にも出店して頂きたいと思います。

（理事長　保川泉）

京急新馬場商店街振興組合 北馬場参道通り商店街

今年は当商店街にとって、少し大変な年となってしまいました。建て替えやお店の事情で、5店舗ほど閉店を余儀なくされました。長年に渡り地元の方々に愛されてきたお店が無くなってしまう事が大変寂しく感じました。しかし、新たなお店も加入して頂きましたし、狭い通りですので商店街の人々も大変仲良く、お付き合いをさせて頂いております。

毎年、盛大に行われております品川神社の例大祭の年番が、来年は私共の北品川2丁目町会の役となります。新たに神社の惣町神輿も新調されました。当商店街において、宮入行事が行われますので、例年以上に盛り上がるお祭りになるのではないかと、大変期待を致しております。

昨年、商店街の役員で結成しましたバンドも、すぐ解散になるのではと思っていましたが、現時点でも楽しく演奏が出来ております。まだまだ未熟ですが、いつか皆さんの前演奏を出来ましたら良いなと思い練習に励んでおります。また来年も変わらず、宜しくお願い申し上げます。

（理事長　加藤丈幸）



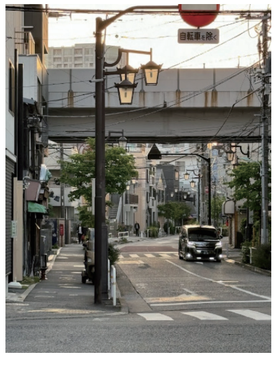
南馬場商店会

新年あけましておめでとうございます。バイク屋の上田モータース鈴木こうちゃん、先代の藤森海苔店藤森さんからとても重たき、会長職のバトンを受け継ぎました渡邊です。

マンション開発が進む中、地域のつながりを守るため、近隣店舗の皆さまとともに再起を誓い、小規模ながら活動を再開して1年が経過しました。昨年はお彼岸のイベントを企画するとともに、地域の安全と魅力を保つために老朽化した街路灯の維持管理についても議論を始めました。

今後は積極的に情報発信を行い、商店会の認知を高め、新たな仲間を迎えながら、地域の発展に貢献していきたいと考えています。どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

（南馬場商店会　渡邊崇志）



青物横丁商店街振興組合

当青物横丁商店街では、無病息災、商売繁盛を祈り、正月風物詩の「新春獅子舞」を毎年行っていましたが、昨年は、石川県能登半島地震の発生により、被災地、被災者にお悔やみの意を込めて中止となりました。数年のコロナ禍が過ぎ、徐々に景気も回復基調にあるところですが、諸物価の高騰によって、会員各位のご苦慮は辛いものがあります。

しかし、ことわざに「苦あれば楽(チャンス）あり」と言います。2025年は、巳年です。蛇は何を表すか。「豊穣、多産と永遠の生命力」の象徴でもあります。今年こそ飛躍の年にしましょう！「新年獅子舞」は1月10日（金）16時、19時にまちを練り歩きます。

（理事長　権東品）



しながわ宿場まつり

9月28日（土）・29日（日）の二日間、第31回しながわ宿場まつりが開催されました。

昨年の宿場まつりは、コロナ明け4年ぶりの開催で手探りの状態で、規模を縮小せざるを得ず、実行委員長を務められた権さんのご苦労は大変だったと思います。

今年はフルスペックでの開催を要望され、おいらん道中の復活が鍵でした。おいらん役の衣装のレンタル代に費用が嵩み、総予算の四割近くを必要とするのです。おいらん役を企業に買って貰おうと提案しました。私の知人で神奈川県の湯河原町のホテルの社長に相談したところ、町長が町を挙げて応援してくださることに成り、現役の芸妓（芸者さん）を二人、おいらん役として派遣してくれました。北二会館の前から出発する時には大勢の観客が見に来てくださり、大変賑やかに行うことが出来ました。

翌29日の日曜日の交通安全パレードは、時折雨にも振られながら、一日署長に日向坂46の潮紗理菜さんをお迎えして、また宿場まつり行列はお品ちゃん役に森澤恭子区長に来て頂き、約2kmを歩き切りました。初の試みに色々なご意見をいただきましたが、来年以降もっと素晴らしい宿場まつりが出来るようにしていきたいと思っています。

（2024 しながわ宿場まつり実行委員会委員長　篠原典男）



＼ 第3回しながわ宿場ナイト ／

令和6年9月28日、宿場まつり第一日目の催しとして本通り商店会主催で「第3回しながわ宿場ナイト」が開催されました。各参加店の前には縁台が並び、丁髷姿の武士や町人・町娘といった出演者が来場者の皆様をおもてなし。来場者は出演者と交流を楽しんでおられました。途中から花魁も参加してさらに盛り上がりました！

出演者の皆様は「品川宿のためなら一肌脱ぐぞ！」と日本全国から集まったいわば品川宿ファンで、宿場まつり参加歴20回以上の強者も多数。また、新たな試みとして「江戸湾クルーズ・宿場まつりコラボ特別便」に出演者が登場してお客様と交流も。夜の商店街を盛り上げる催しとして、次回も宿場ナイトを企画中。

（木下正也）



＼ 宿場間交流　品川橋 ／

9月29日の日曜日、しながわ宿場まつりも第31回を迎えた。例年であれば品川橋の賑やかしに大磯宿や三島宿の方々もお迎えしていたが、コロナ渦以降は両宿のおまつりも形を変えて来たので宿場同士の行き来も少なくなってしまった。

しかし今年も小田原宿から外郎売の口上研究会代表の善波さんのお声掛で、ご本家ういろうさんの出店、殺陣（たて）の会や紙芝居の会のご出演が叶い総勢20名での来宿を頂いた。橋の上で立ち止まる方々、歩道の縁石に腰掛ける人たち、多くの観客が拍手をおくってくれました。

事前の連絡や手配の全てはまち協事務局の竹中さん、テントの設置から撤去までではなぎさの会の皆さん、吉田さんには駐車場や着替え場所へのご案内、お弁当の配布等。小野さんはじめ東京サラヤの方々にはゴミ袋の設置から片付けまで、お手伝い頂き本当にお世話になりました。

（長谷山　純）



みんなでよりよいまちをつくろう

ガイドしながわの皆様にご協力いただき実施しました「まち歩き＆目黒川クルーズ」や「東海道歴史探訪」により、自分たちのまちの良さを再発見した6年生がそれぞれに課題意識をもって、「みんなでよりよいまちをつくろう」をテーマに話し合い（熟議）、その後、提案発表会をしました。

「源頼朝公や徳川家康公も関わったまち〜北品川〜」「未来に繋がる祭り」「北品川PR大作戦」「安心安全な品川を目指して」「楽しめる公園に行こう計画」「未来の環境を守ろう」などについて発表しましたが、しながわ観光協会、まちづくり協議会、品川区役所などの多くの皆様から感想や意見、講評をいただきました。お陰様で、子どもたちは、主体的に協働して創り上げたことを表現する喜びを感じることができました。また、この楽しい学習を通して、我がまちのことを深く理解し、一層愛着をもつことができました。関わってくださった皆様、ありがとうございました。

（台場小学校校長　中嶋英雄）



北浜こども冒険ひろば

冒険ひろばは異年齢が交わる場所です。子どもだけでなく、通りがかりのおばあさんがけん玉を披露したり、会社員がコマを手に乗せていく日もあります。

昔ながらの遊びは、そんな風に世代を越えて楽しめると同時に、ルールを工夫したり、自分たちで新しい遊びに作り変える余白がたくさんあるのが魅力。今日も子どもたちは突然、ロープ鬼やろう！ と目を輝かせ、見たことのない遊びを始めました。

2024年の冒険ひろばは、ベーゴマが流行しました。令和に?と思われるかもしれませんが、これがシンプルで奥深い。回せるようになるまでが難しいのだけれど、だからこそ教える人が重要になります。

小学生は中学生に教わり、中学生もまた大会に出かけて大人に教わり、さらに技を磨いて小学生に得意げに教える。回し方だけじゃなく、強いコマにするためヤスリで削ったり、格好よくデコったり。それを見て幼児さんも触れたくなる。そんな伝授と憧れがうまくかみ合ってのブームでした。

（北浜こども冒険ひろば　栩秋太洋）

